

ナレッジベース①：意匠編

面積・動線・配置の判断基準（S造研修所）

チェックリストの各項目を「適切かどうか」判断するための数値目安・判断基準・設計者への質問例を記載。

1. 面積計画の判断基準

1-1. 宿泊棟（チェックリスト A-3-1～A-3-7 対応）

居室面積の目安

居室タイプ	面積目安（1人あたり）	備考
個室（ビジネスホテル型）	13～18㎡	ユニットバス付の場合
個室（研修所標準）	10～15㎡	共同浴室の場合
2人部屋	8～10㎡/人（16～20㎡/室）	研修所で多い形式
4人部屋（寮型）	5～7㎡/人（20～28㎡/室）	コスト優先の場合

判断のポイント：

- 要求水準書の収容人数と居室タイプから逆算して、延床面積に対する宿泊部分の比率を確認する。宿泊棟全体の延床面積のうち、居室部分は概ね55-65%、残りが廊下・共用部・設備スペースとなる
- 居室面積が上記目安より明らかに小さい場合→「発注者の要求水準を満たしているか？類似施設の居室面積はどの程度か？」と設計者に確認
- 居室面積が目安より大きい場合→コスト増要因。「この面積設定の根拠は？」と確認

設計者への質問例：

- 「居室面積の設定根拠を教えてください。類似の研修所と比較してどの程度ですか？」
- 「収容人数○名に対して居室数○室ですが、稼働率をどの程度想定していますか？」
- 「居室の家具レイアウト（ベッド・デスク・収納）は検討済みですか？」

共用部面積の目安

共用部	面積目安	備考
ロビー・受付	30～60㎡	収容人数100名規模の場合
ラウンジ・談話室	20～40㎡	収容人数の15-20%が同時利用想定
洗濯室	10～20㎡	洗濯機3-4台/100名
大浴場	50～80㎡	洗い場1人あたり1.5㎡×同時利用人数

判断のポイント：

- ・ 大浴場がある場合、ピーク時（研修終了後）の同時利用人数から洗い場の数を逆算する。収容人数の30-40%が同時利用するケースが多い
- ・ 洗濯室は長期研修（1週間以上）なら重要度が上がる。研修期間を確認すること

1-2. 学校棟・教室（チェックリスト A-3-8～A-3-12 対応）

教室面積の目安

教室タイプ	1人あたり面積	備考
座学教室（スクール形式）	1.5～2.0㎡/人	机+椅子の最低限
座学教室（ゆとり配置）	2.0～2.5㎡/人	通路幅確保・PC利用
演習室（グループワーク）	2.5～3.5㎡/人	島型レイアウト
PC教室	2.5～3.0㎡/人	ダブルモニター等の場合さらに増
実習室（軽作業）	3.0～5.0㎡/人	作業台・工具等のスペース

判断のポイント：

- ・ 「スクール形式で40名収容」なら教室面積は60～100㎡が目安。これより小さいと窮屈
- ・ 教室の奥行きは12m以下が望ましい（後席からのスクリーン視認性）
- ・ 天井高は2.7m以上が望ましい（圧迫感軽減、プロジェクター投影距離）

設計者への質問例：

- ・ 「教室の運用形態（スクール/島型/シアター等）は発注者と合意していますか？」
- ・ 「間仕切り変更の要望がありますが、可動間仕切りの遮音性能はどの程度を想定していますか？」